

| | | | |
|--------|--------------|----|------|
| 所 属 | 環境生活部 少子化対策課 | | |
| 担当(係)名 | 少子化対策担当 | 内線 | 2681 |

新 家庭・地域における良好な子育て環境の整備

＜子育て支援対策臨時特例基金事業＞

| | | |
|--------------|-------------|-------------------|
| 1 事業費 | 【財源内訳】 | 【主な使途】 |
| (前年度 14,444) | 一般財源 14,444 | 委託料 12,281 (業務委託) |
| 12,196) | | |

2 背景・現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等により、母親の育児不安、孤立等に伴う児童虐待等が問題となっている。また、共働き夫婦が増加し、仕事を持つ親の代わりに祖父母が育児を担う機会が増えているが、時代とともに育児も変化する中、世代間ギャップによるトラブルや孫育てに不安を抱く祖父母世代が増えている。一方、中小企業が多い本県では男性の労働時間が長く、育児休業取得率も全国平均を下回っており、父親の育児参加を促すことにより、母親の過度の育児負担や育児不安を軽減していく必要がある。

3 事業目的

家庭や地域における良好な子育て環境を整備するため、母親の育児不安の解消、多世代の相互理解及び父親の育児参加を促進する各種事業を実施する。

4 事業概要

【主な取組】

新 (1) 親教育プログラムファシリテーター養成事業 (948千円)

＜子育て支援対策臨時特例基金事業＞

- ・地域における子育て支援の充実と虐待の未然防止を図るため、育児不安を抱える親を対象とした親教育プログラム（ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム※）を実施するファシリテーター（進行役）養成講座を開催する。

※1980年をはじめにカナダ政府保健省が中心となって開発した親支援プログラム。親が10人前後のグループとなり、ファシリテーターの側面支援のもと、相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で課題を解決する。

新 (2) 子育て相談窓口「ぎふ子育て応援ステーション」の運営等 (12,196千円)のうち、「孫育て講座」の開催

- ・世代間ギャップ（育児環境、育児技術、考え方等）を解消して、祖父母が孫やその親と良好な関係を築き、子育てのより良いサポーターとなってもらうための「孫育て講座」を開催する。

新 (3) ぎふイクメンプロジェクト（セカンドステージ）の実施 (1,300千円)

＜子育て支援対策臨時特例基金事業＞

- ・父親の育児参加を促進するため、平成22年度に実施した「ぎふイクメンプロジェクト」の成果（イクメンの育成、発掘、発信・交流）を継続・発展させる事業（メール配信や交流会開催等によるイクメンネットワークの形成、イクメンハンドブックの作成）を行う。

| | | |
|-------------------|--------------|-----------------|
| (款) 2 総務費 | (項) 2 企画開発費 | (目) (2) 企画調査費 |
| (明細書事業名) ○少子化対策費 | | |
| | 地域子育て支援推進事業費 | |
| (款) 3 民生費 | (項) 4 児童福祉費 | (目) (3) 家庭児童福祉費 |
| (明細書事業名) ○児童健全育成費 | | |
| | 地域子育て創生事業費 | |